

馨城春秋

號 六 第

行 發 馨 城 春 秋 社
所 行 發 馨 城 春 秋 社
八 六 町 田 市 平
二 三 五 話 電
人 刷 印 行 發 馨 城 春 秋 社
水 稻 木 高
所 版 刷 印
所 版 活 平

【錢十四部一價定】

總選舉に對する 一 命 題

總選舉は三月三十一日と決定した。新生日本の總意を否存在を決定し得る日は近づいた。立候補者諸氏は本格的にその活動を開始するであらうし亦所謂政治ブローカーはその本領を發揮するであらう。この時に當つて我等は如何にその選舉權を行使せねばならぬか、此處に重大なる問題が發生

魅力とは何ぞ

來るべき總選舉を前にして石城郡下からは目下無慮十三名の候補者が名乗りをあげてゐるが抑も新時代の先驅者として最も必要な要素は何であらうか、大衆はいかなる點に魅力を感じてその後を續かんとするか、深遠なる智力か、高潔なる人格か、はたまた逞しき

民主主義政治は好むと好まざるにと拘らず決定的命題である。此處に於て我等は二つの命題を發見する。即ち第一の命題は「ベルギー」の如き君主を擁する民主主義國家を求めんか或は「フランス」の如く共和制を取らんかに存する。前者を欲すれば所謂右派に復者を求む

れば左派にその權利を行使する譯である。元師はこの判斷を凡て國民の意志に任せてゐる。即ち國民の自由裁量により決定せられる問題であるが故にその重大性が存し些の輕卒も許されないのである。第二の命題は第一の命題の何れを欲するにせよ「政治、生活文化」は一体であることを強く認識し生活の安定と文化の向上——和平日本の建設——に努力し且實行し得る人物を選ばねば

要素の一部ではあるが全部ではない。一能一藝に秀でたるものや何等變りはない然らば欲くべからざる要素とは何ぞや。人生意氣に感せしめる底の情熱である時としては理外の理を解し打算を離れ、惡徳を恕し清濁併せ呑み一身を大衆に委して私心なく、その發散するものはそれだ情熱のみかくの如き人物に大衆は魅

ならぬと云ふ事である

立候補者の公的資格は政府が決定する。我等は冷靜な批判によりその私的適否を判斷せねばならぬ。即ちその候補者の過去の、現在の眞の姿を知つてゐる者は地方大衆だけである。我等はこの意味に於て眞劍に検討せねばならぬ。その表面的な主義、政策に惑はされてはならぬ。我等の一票を如何に行使するかに依つて大政黨もその影を没し小政黨も一朝にして大政黨たり得ることを知らねばならぬ。警鐘は乱打されてゐる。馨城の選舉民は冷靜に眞劍にこの選舉を通して生きなければならぬ。誤を犯しなはならぬ新生日本建設の重任はその双肩に在る

力を感じ、彼等もまた利害を忘れてその周邊に聚集する。知らず石城郡より出馬せんとする人士にかゝる情熱を有する人物ありや。酒間に肩を叩いて事を談じ、酒戦々競々として人氣を氣にするが如きは所謂舊政治屋の型のみ。古きものは新しきものに置き換へらるる運命にある。情熱こそは大衆を魅する迫力の源泉である

政治の部を引いて見ると然るに「政治破落戸」といふのがある。漢字でかう書かれると一寸體分ないだらうが「せいじごろう」といふ假名をつけると誰にも好くわかる。その解説には「政黨員政客の家に出入し金錢を強請し、又はその走狗となつて報酬を受けて生活するもの」となつて出てゐる。實に「いじぎ説明」といふべきである。(「辭苑」による)

△この三つは何れもいやな言葉だがかういふ言葉は早く辭書から追放したい。新しい民主主義の政治は先づ日本の辭書からかうした語を追放することから始めねばならぬ

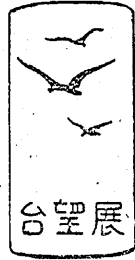
貝殼 追放



△ヨハネ傳の冒頭に「はじめに言葉あり言葉は神と共にあり」と書いてある。北島親房卿は「ことばの亂れが國の亂れの前兆である」と述べてゐる。

△近頃、戰爭中から非常な勢で流行し、現に流行の全盛を極めてゐる言葉に「聞」といふ言葉がある。辭書を引いて見ても「公正ならざる手段を以て物を手に入れる行為」といふやうな解説はない。全くの新らしい意味で使用されてゐるのである。

△大正十年以前の辭書には「聞」といふ言葉の解説に「いへがら、いさを」といふのだけだったが昭和時代の辭書には「共通の特殊事情によつて構成された團體でその因縁關係に依つて利益と便宜を得對外的發展をはかるもの。圍閑、財閥、軍閥、學閥、藩閥等」と出てゐる。言葉の亂れだ。



◇神様冒瀆記

或る日金融上の用事で大町の某會社に行つた時のことである。支店長が音頭を取つて正面に祀られてある神壇に向ひ厳かに一同に「拜禮二拍手一拜」と號令を掛ける。社員一同がこれに和し二拜二拍手一拜をする。ところがこの動作をよく注意して見ると心から神に敬意する人と、仕方なしに「別される」。

過日司令部から神道廢止の指令が出たことは今だ吾々の腦理に生々しい。この指令に依ると官廳、學校などの神棚は凡てこれを撤去し神道の強要は禁止されることになるらしいが、役所や學校のみ神棚を外して見たところではこの會社のようにな堂々たる神様が殿として鎮座ましまして、朝夕社員が禮拜を強要されてゐることを放任してゐたのでは指令の主旨も形式に終りそうである。一會社の神様があらうがなからうが別に第三者の自分達には關係ないこ

とではあるが禮拜を強要されてゐる社員の態度は割り切れぬものが感じられるので、敢て一文を草し社會の批判を仰ぐ次第である (如月漢太郎)

◇平日用品交換會私見

待つに待つた平日用品交換會が二月一日遂に開所したので早速會場へ赴いた。品々に、戦前の明るい商店街の陳列窓を一つ、覗き乍ら歩いた昔が懐しく思ひ出されて胸ふくる、思ひがした中でも歴巻はバイロツトの飛行服で婚禮衣装一揃を希望してゐる事、復員の兄が結婚適齡期の妹の爲に自分の服を投出した姿も想像されて微笑ましい。但し第一回出品物の姿には出品者の生活にまだ、餘裕の感せられる點で、今後は眞の大衆の生活に於けるもつと深刻な世相が現れるやうになつて初めて眞の利用價值が見出せるのではないか。

とまれ本通りの商店がいつでも扉を閉ぢ或は半開にして未だ氣息上らざる時に路傍の關市に人の蟬集するあり更に此の日用品交換會場に豊かな生活必需品の山を

見る時、時局のもたらした奇妙なコントラストを見る。そして亦どうしても見つかぬ品でもある處には有るものだといふ經濟の裏面に大きな示さず興味を覺える。さばれ時局下市民の切なる要望に立つた日用品交換會が折角健全なる發展を遂げて市民の厚生福祉に捧げられん事を祈る。(御膳山人)

◇警中先輩諸氏に訴ふ

幾年振りか故郷の土を踏んで昔親しく導かれた先生達を以て一諸に學んだ友は今何處に何うしてゐるのだらうかと考へさせられた。「馨城中學校」本當に親しい響を以て耳朶を打ちます。同窓會はもう解散してしまつたのでせうか、會員名簿はないのでせうか。同窓會の役員先輩諸氏よ、同窓會を華々しく復活させて下さい。第一回より第四十六回迄の全卒業生の親睦は確に一大歴巻でせう、せうして會員名簿を發行して戴いて親しくお交際させて頂いたからこれを基礎として新生馨城の一方推進力たり得るもの考へます。私と同じ考を持つておられる方も多し、ことゝ存じます先輩諸氏の熱心なる御盡力により實現

しすることを信じておりませ (七丁目復員生)

誰がために鐘は鳴る。新聞に出るあの本のこの本手に入れたい望はおなじ止みがたき讀書人のこゝろに通ふ

ホンヤでありたい。これがホンヤ・ササキの祈であり

愛書家への奉仕である。新刊書の注文は

ササキホンヤ 平本・通二 電四一五・二三三

皆さんのために！ 交換會を開設しました

日用品交換會開設 新古家財道具、衣服類、日用品、不用品、其他一般物資

馨城日用品交換會 責任者 坂本忠治 平市仲町二 電話三四四番

産科婦人科 實川醫院 平市田町 電話二七〇

有限會社 星アンプル工業所 平市佃町

金物類一式 農機具類一式 精粉機 製塩釜 家庭風呂釜 船舶用發動機 鐵山用機械 佐藤鐵工販賣部 平市四丁目マルトモビル 電話二二四番

本社合資 佐藤鐵工所 電話三六二・七一三番

レストラン サロ 平市銀座通 電話五九二番

◎貸本部開設 一、書籍の種類が廣汎なことが特色です 二、會員組織ですが會員の御紹介があれば誰方にも御貸致します 三、書籍の散逸を防ぐため保証金を御預りいたします 平市四丁目 電話二三四番 マルトモ書店貸本部

外科内科 松村醫院 平市白銀町一〇 電話一〇七番

耳鼻咽喉科 大和田醫院 平市南町 電話八七四番

旬 間 録 音

一月28日 二月13日

總選舉に對する動きが活潑に成つて勞資協調が圓滑に行き各勞組が續々結成されてゐることが本旬間の主な動きである

富士興業從組結成 二十九日 平市富士興業磐城工場では從業員組合を結成、積極的に會社經營に參畫した

煙草の收納激減 三十日 專賣所平出張所管内廿年度葉煙草收納は廿五日完了したが本年度收納豫定十五万二千二キロに對し現收納量は九万八千四百六十九キロで三割七分四厘に當る五万八千七百三十三キロの減收を生じてゐる

火葬料値上 三十日 平市營火葬場では燃料資材値上のため二月一日から火葬料現在十圓、八圓、五圓を三倍値上する

躰市決る 一日 石城馬産組合は十九、廿日澤渡、廿一、二日上遠野、廿三日田人、三月十一、二日川前の順で躰市を行ふ

出炭終戦來の記録

常磐炭田一日の出炭量は割當十四万二千噸を遙に突破し十五萬噸を示すに到り月出炭量としては終戦以來の増産記録を出した

日曹礦業事議解決 四日 赤井村日曹赤井礦業所に對する常磐礦山勞組赤井第二支部の勞働爭議は、會社側の誠意に依り卅一日要求十九ヶ條を承認全面的に解決した

地方勞働委員 炭礦勞務者代表決定 五日 湯本町で銓衡委員會を開き、常磐炭礦湯本坑、武藤武雄、常磐地方坑夫組合加藤木誠一郎の兩氏を選任した

常磐炭礦勞組 單一組合結成 五日 平市に各支部緊急幹部會を開き單一組合を結成、七組合七千五百名を結集した

平局に勞組 五日 平郵便局では從業員二百七十餘名を以て勞働組合を結成した

リンク制綱

平市の油リンクに依る最初の魚類は二日一人二尾宛配給、小賣値段が一貫五卅一圓で自由市場の約半値と云ふ安値だったので全市民から非常に喜ばれた

供米完遂必成期間 八日 石城郡下の供米は五十九%で益々好調を示してゐるが地方事務所では五日から廿五日迄を「供米完遂必成期間」と定め、懇請班を組織して未完遂農家を戸別訪問し此の期間中に供米を完遂すると意氣込んでゐる

春秋俱樂部發足 九日 湯本町國民學校の先生方が中心となつて文化團體「春秋俱樂部」を結成、月二回の例會により文化研究をする

大野村議選舉 十三日 大野村會議員選舉は十日執行されたが棄權率僅に四分六厘で新日本建設の意氣が投票に現はれてゐる、なほ當選者は前議員二名で他の十名は新人である

女性解放座談會

若い女性の讀書會

かねて磐城文化協會で計畫中であつた平市在住の若い婦人を中心とする修養機關讀書會を持つといふ企は愈々機熟して去る九日結成準備會を開き、十一日午後六時から播磨小路の文協事務局で第一回の會合を開いた

當夜は日本週報第六七號をテキストとし「女性の解放座談會」の合評會を行つた集つた人達は十四名、高木文協委員司會、參政權問題家族制度問題、女子教育問題等に就いて會員から活潑な意見が述べられた。特に女性解放の根本は女性の經濟的獨立が根本であるといふ意見が加藤静枝、宮本百合子、山室民子、湯淺とし子等の女史が日本の家族制度の桎梏に就いては實際経験がないではないかといふやうな意見には若い女性の鋭い慧智の閃きが見られて頼もしいものがあつた

なほこの會は毎月一日と十五日に集りを持つことに決定、次回は三月一日石井久伊さんの「万葉集の東歌」に就いての發表を中心とする座談會と決定した

新日本建設回生會

會員大募集!

出た! 救國運動の花形、回生救済主義。正に原子真理、世界平和時代きたる。

世界文明の要、貴重祖國日本は今や危局に直面しつゝあり。速かなる、立直りこそ一地上人類に對する、八千萬大和民の、責務である。憂國熱情の士、擧つて本會事業に、參加せられよ! 眞に、歡喜の生活は、入會の榮譽より生ず。

○老若男女を問ひません。奮つて萬人の御人會を待ちます。會費……年、十圓。會員お申込と同時に、御拂込下さい(直接または、小爲郵送金)

○會員の五大特典——1. 會報配布 2. 百發百中、不思議にあたる。「御くじ」及び、なんでも分る「人生よろづ相談」割引券、提供 3. 催しもの、優待券、配當。4. 會員の、幸福祈願。5. 實踐による、御子弟教育。講演會、座談會

○本會機構——政治研究部(光明十政綱) 神佛第一。天皇制、護持改善。正直政治。眞理探求。主厨食糧、絶對解決。衣料充満。住居問題、向上。健全娛樂、支持。日本的、民本主義、宣布。國際聯合、讚美。宗教班(道德實行。教會、寺院、推稱)。經濟部(物質生産、および交流の、經營または智識普及。特に會員の經濟向上援助)

○其他、發明的機關、設立準備中 平市一丁目五〇 新日本建設回生會 主唱 靈格 谷口元道 予言者 四十四歳 本部支配人、小齋宗四郎 宣傳部長、野澤武藏 顧問、中村月城

磐城春秋

立候補資格確認申請者

十五日現在

内務省では衆議院議員立候補の資格審査申請書提出の締切を三月廿四日まで延期したが二月十五日現在の申請者は本縣の定員十三名に對し八十五名に上り當選率六倍半と云ふ激戦を予想されるに到つたのであるが本縣關係申請者は十二名で

Table with columns: 氏名, 住所, 職業, 黨派. Lists candidates like 關内正一, 古川傳一, 八代義定, etc.

鈴木傳明(男) 平市仲大和炭礦 無所屬 (新)
日野定利(元) 内郷町 運送業 共產黨 (新)
松井政吉(男) 上遠野 東新炭礦 社會黨 (新)
虎雄(植田町) 谷口元道(平市一丁目)

暗い影

脱税と濁酒密造の罰金 關取開相場どららるるを向いてもこれ關ならざるはなしといつても過言ではない、しかしまさか税金には關はなからう。かう思つて脱税署に就いて伺ひを立てて見ると物品税、濁酒の密造に就いては次のやうな脱税と罰金があつてゐて、ここにも暗い影がさしてゐる。

瓜田訓導遺族への義捐金募集

昨年七月廿六日平第一國民學校の校舍に投せられた爆弾により殉職を遂げた同校訓導瓜田壽氏の遺族のため最近平第一國民學校長黒田吉之助、第一國民學校代表山崎忠兵衛、第一國民學校同窓會代表鈴木富雄、同僚代表大和田祐之の諸氏が發起人となつて義捐金の募集を開始した。故瓜田訓導は三月十日の戦災に依つて家財等が丸焼けとなつてをり、加ふるに遺族はエミ子未亡人(四)ケイ子(一八)磐中卒健(一七)磐女三年(一〇)卒健(一六)の合計六名といふ多人數であり。遺族扶助料と長女ケイ子さんの給料(五)丁目染物統制會支部勤務)だけでこの物價高の嵐の中を生き抜くには容易ならぬものがある。一度募集趣意書が發表せられるや、翕然として同情が集まり、現在迄に八十餘名の申込があつた。募集金額は一口二圓で送金先は平第一國民學校長宛、宛切本月末

合同政見發表會

衆議院議員立候補者合同政見發表會は左の如く決定した。
期日 三月十七日(日)
場所 第三國民學校講堂
參加資格 平市に事務所を有する候補者
詳細は追つて報道す

産科婦人科 五十嵐醫院 平市新川町 電話三六九番

冷眼視するな

復員軍人は語る

最近いろいろの角度から世間の問題になつてゐる復員軍人及外地引揚げ居留民の偽はらざる聲を聞いて見ようといふので二月六日の夜、平市内在住の松崎喜雄氏(朝鮮京城朝鮮郵船同造船會社)森下重雄(レイテ島航空通信隊)川又英二(北海道陸軍中尉)石垣貞吉(元憲兵曹長)木下正守(北支北京陸軍上等兵)河田稔(群馬陸軍中尉)の六氏を招いて本社編輯室で座談會を催した。

1. 終戦直後の現地情況はどうか

松崎 全く茫然として完全に虚脱状態に陥つてしまつた。特に朝鮮は日本から分離されるといふのだから在留邦人は我勝ちに自分の財産の處分に狂奔し始める。その中に勝手に處分してはならぬといふ軍政府の指令がある。官廳會社は役人や社員がどん／＼朝鮮人といれかはつてゆく。市内の秩序はほとんど無警察状態が出現した。食糧は終戦後どつと一時に出て来たので内地の食糧難を聞いてゐた私達は思ひ切つて踏み止つて半年位居食ひしようといふ計畫も立てたのであるがその中に内地歸還の指令が出て歸國したのである。國家

といふ背景を失つた在留民位みじめなものはない、全く木から落ちた猿である。森下 無條件降伏を知つたのは八月十六日で自分達はネグロスの山の中にあるアメリカの飛行機の撒くビラに依つて知つたのである。最初は何もなかつた。本營と信じられなかつた。當時我々の部隊の残存兵力は小數であつたがよし終戦が事實としても一戦を交へようといふ氣構へであつた。その中に參謀の人が連絡に來て山を下りることになり九月二日に投降した。その時は一緒に逃げ込んだ在留邦人も一緒だつた。

川又 北海道の大雪山脈の根にあたる白龍といふ所で陣地構築中に終戦を知つた。その時自分は來るべきものがとう／＼來たと思つた。何故かといふと一昨年の九月、千島にゐた時參謀通謀として「ソ聯の船が近寄つて來ても發砲するな」といふのがあつたり、昨年四月北海道に來て見ると、三百人の部隊に銃が五十位しかなかつたり、陣地構築

の命は出たが資材はほとんど支給されなかつた。有様だつたのでこれは駄目だ戦争も終結が近いと思つてゐたからである。當時自分の部隊はまだ戦意が強かつたが旭川に出て見るともう軍人がどん／＼復員してをり軍が混亂してゐる。そこでこれはもう戦争にはならんと思つた。

木下 終戦當時部隊は多少混亂したが、將校は戰意旺盛で武器彈藥も充分だつた。米軍と一戦を決意してゐたやうである。しかしいふ／＼の外部の情勢がわかつて來て他の部隊との連絡にも電話だけで外出はしないうやうになつた。支那民衆は別に危害を加へるやうなことはなかつた。在留邦人はどん／＼物を投げ賣りしつてをり終戦後の方が我々軍人に暖かい氣持で接し、訪ねてゆくも惜しげもなく高價な食物を御馳走してくれたりした。

2. 内地に來ての第一印象はどうか

松崎 貨物船で大阪に來たのであるが汽車で平に來る迄全く辨當を買へないのは弱つた。汽車中で自分達を見てお握りをわけてく

れた人もあり非常に感激した。あちらで戦災や食糧事情治安状況について随分極端なデマが横行してゐたので内地に來て寧ろ案外だつたと感じた。ただ今後の生活問題には悩んでゐる。

森下 全く想像したよりも案外好かつたといふ一語につける。

木下 佐世保に着いて、海軍の軍人が米進駐軍に比べて日本は敗戦したのだといふ氣分を味つた。大阪に來て被害のひどいのに一驚した、それから自分の軍服姿が汽車の中などでも恥かしかつた。

3. 現在の世相を眺めての感想

川又 すべての軍人を戦争犯罪者のやうに見る態度は反省してほしい。國のためにつくす純情には變りがないのだ。指導者はこの點に就いて充分注意してほしいものである。復員軍人を自暴自棄の境涯に追ひ込んでゐる。

河田 共産黨に入つた特攻隊長といふ新聞記事があつたが、世間は冷たいからかうしたことになるのだ。兎に角純情を持つ若い復員

軍人が共産黨に魅力を感じさせるやうな世相は考慮の餘地がある。

森下 米兵は決して現地で民間の物資を徴發しない。また想像以上相手を信じてくれるし、差別待遇といふやうなこともやらない。日本軍は命令と権力で統制をさるのでこの點で既に米軍に及ばない。收容所に入られてからも實に好く待遇してくれたい。

石垣 一部に軍人を冷視する傾向のあるのは不愉快だ。或街で孫が兵隊さんよありがたうといふ唱歌を無邪氣に唱つてゐると祖父がそれを頭ごなしに叱りつけて軍人を罵倒してゐるのを目撃したが孫の方は何が何やらわけのわからんやうな泣顔をしてゐた。この家庭からは一人も軍人を出してゐない。自分の所から一人でも軍人を出してゐる家庭では矢張復員者に暖かい氣持と理解とを持つてゐる。

編輯室より
△印刷所の都合に依り十一日發行の分は休刊のやむなきに至りました。あしからず御諒察下さい。
△「磐城春秋」ペンクラブは近く發足の予定、種々の御批評もあります。本紙は飽く迄も本紙本来の立場で編輯をやつてゆきます。
△第五號迄の分は紙張小數あり、御希望の方は本社へ申込を乞ふ。

人物 紹介

李 影 君

在日本朝鮮人聯盟 福島縣本部外務部長

「三十六年間の歴迫に對する我等の復讐の時來た。ともすれば日本在住の我々同胞の中にはかうした誤つた考を持つ者もある。しかし私は常にいふのである。『飽く迄も事實をつきとめよ、感情に走つてはならぬ冷静に行動せよ、話せばわかる』と。日鮮兩者はお互の誤解を解いて飽く迄も平和國民として行動すべきである。つまらぬ誤解から紛争を生みつゝある現在の状況は悲しむべきことだ。』多少の訛は聞かれるが、激みなく語る青年の瞳には、虚げられた祖國朝鮮を復興しようとする熱意と自信が輝いてゐる。場所は本社の編輯室、語るは在日本朝鮮人聯盟福島縣本部外務部長李影君だ。李君は本年三十歳、朝鮮の忠清北道の生れで、八歳の折長崎に來てゐる。父君が醫者で長崎醫大に研究のため渡日した折、父君の世話をした猪股といふ人に子供がなかつたので養子の格で長崎に來たのである。

千人居つたのが半數の四千五百人が歸國してゐる。一妻が日本人である所から同胞中には自分を親日派として誤解してゐた者もあり民主主義の何たるかも全然わからぬ者もあるといふ状態。祖國の復興も容易ではない」とも語つてゐる。在朝常に深い反省の方で自己の未完成を悔み抜いて兎角尻込思案に墜り勝ちな氣持を高き理性と強い熱情とでひたむきに音楽に打込んでゐる若き聲樂家根本子嬢は、磐女二十七回生で官立東京音楽學校聲樂科を卒業し、目下同校研究科で學んでゐる二十四歳の明るい將來を持つた女性である。買家は平市二丁目店を構へる十數代續いた産物雜貨の老舖大屋で、當主善吉氏の二女であり流石は高尚な人柄を見せてゐる。五月から教鞭を取つてゐる母校磐女の音楽教諭も一月一杯でやめ再び上京三月卒業迄學校で更に先生について聲樂の勉強を續けると云ふ。然し例へ自己は未完成であつても故郷の文化發展のためならば何時でも歸郷

新女性紹介

根本子嬢

し全力を盡すと云ふ彼女は「音楽を通じて文化運動が最も近道です」と前置して文化に對する識見を語る。「一般にもつと音楽が普及しなければなりません、そのためには全磐城の女性を網羅したコーラスを作り共に歌ひ共に聴き生活そのものの中に音楽を溶し込んで行かねばなりません。福島郡山、白河等は既にコーラスが出来てゐます、當地方もその必要を痛めます」目下彼女は磐女の田中三郎先生とその具体案を協議中である。更に彼女は新しい女性に對し次の如く呼掛けその文化的主張を唱へてゐる。「女性はもつと旋律に親しみ生活そのものをリズムカにして行く必要がありま

これが文化と一体になつた生活の第一階段です。實際もよくし大衆よりは郷土の音楽家として親しまれてゐる彼女が愛する故郷で音楽を通じて文化の發展向上に努力する日も近いことであらう

診療科目 内科 院長 國井 龍正 外科 院長 小野 宗八 耳鼻咽喉科 院長 廣橋 田鶴 産婦人科 院長 伊藤 留三郎 小野 彌生 眼科 院長 渡邊 謹吾 耳科 院長 伊藤 留三郎 小野 彌生 産婦人科 院長 伊藤 留三郎 小野 彌生 診察時間 平日午前九時至午後四時 日曜祭日休診 但急患ハ此ノ限ニテラズ 平市十五丁目十三番地 日本醫療團 平病院 電話(六〇八番)八一三番 院務部長 内木 六八三番 藥劑士 小阿部 明隆 宗八 野 幸八 ヤマフル醬油味噌 製造元 鹽屋 平市古銀治町 電話 二七〇番 強制疎開ノタメ湯本町ニ假診療中 處今後左記ニ開設仕候 伊藤齒科醫院 齒學得業士 伊藤 一人 齒學得業士 神尾 精二 平市才細小路一 電話三四五

地方文化問題 (上)

一 毒 會 員

「馨城には文化がない」或は「馨城には文化が育たない」と云はれた過去を持つ郷土に、文化興隆の熱情の昂るのを見る時、秘かに喜びを感じ得ない。敗戦の冷峻な現実の中から、新生の息吹が雄々しく立ち昇るのを考へる時、我々は再び此處に文化について、地方文化について反省をせねばならない。時代の相言葉である「文化」といふ言葉が果して如何なる意味に於て用ひられてゐるのであるか。その言葉の中に觀念的な、夢想的な、貴族的な果敢ない餘韻を持つてゐるのではないだらうか。だとすればそれは、戦争中にもてはやされた全体主義言論が現實の發展過程を誤つた一つの横道であつたのと同じく、文化なる觀念も反動的な愚なる痼言と云はざるを得ない。我々には現實の正確なる把握から離れては、文化て何者も理解し得ない事は明白である。そして、この立場に於てのみ堅實なる地方文化の在り方も期待し得るのであらう。

一、文化について
抑々文化或文化的であるといふ言葉の中から抽出し得る内容は、如何なるものであらうか。都會が文化的であるか云はれ、地方が非文化的であるか云はれる時、我々は具体的には何を想起するであらうか。簡單に云へば都會と地方の差異如何と云ふことなのである。

先づ都會に於ける圖書館、學校、音樂會等を想起する。と同時に、各人の日常生活に於て、讀書をし、音樂を聞き、繪畫を鑑賞するといふやうな具體的な現れを見る。通常文化的と云はれる場合には、斯かる文化施設の即ち文化財の多寡如何が問題となるであらう。眞の意味で文化的と云ふ時にはそれらの事が如何に消化されてゐるか、文化性を如何に身につけてゐるか、即ちそれらを如何に自分のものとし、確實に理解してゐるかと云ふ點にあるのであるであつて、まことに「愛染かつら」の批評など書かうとは思つてゐない。

「愛染かつら」雜感
城木伊佐夫
諺に「牛に索かれて善光寺詣り」と云ふことがあるが、子供達に勤められるまゝ、喰はず嫌でもと思つて先週の夜「愛染かつら」を観に行つた。そして観客の波に押され、何かこんな大衆の心を捕へたのかと観てゐる中に「成程なあ」と思つたり、「うまいなあ」と感じたり、所々微笑を禁じ得ぬまゝ、観終へてしまつた。そして今感じたことの断片を書かうと思ふ。

「犯罪者は誰だ」 (大 映)
脚本は村上正三、演出は田中重雄。中野正剛氏をモデルにした問題作で相當期待されたが、やはりその元の新興調であり、際物映畫の域を多く出でゐない。軍人を誇張した悪玉にしたり、梅森代議士(阪妻)の周囲の代議士は殆んど梅森に對する實道具であり、題材は今次戦争中の事件を取扱つたものでありながら、その調子は明治大正時代の新派劇を観るのさ大差ない。阪妻の梅森代議士は唯好々爺であり明治時代の老政客と云つた所。時の抗し難き軍部の政策を批判し、時局を見透し正義を説く鏡いひらめきなごは到底見られない誠につきはきたらけなお粗末な映畫である。併しその企圖する所は充分買ふべきであらう。こうした映畫の現れるのも之も民主主義の一つの現れとも云ふべきか。

觀客の心を捕へ氣をなます所なのであらう。筋の方はさもなくともこの映畫の演出者野村皓将は誰れにでもすぐ納得のゆく極めて親切丁寧な演出法である。所謂良心的作家のやうなひざりよがりの奮略法や、急激な場面の轉換で觀客がついてゆけないやうな無理な演出など一つもないと云つていい。又それだけに含蓄に富んだ滋味のある所など棄けしたくとも之にはない。ささか小津氏に對して證を失するかも知れないが、「父ありき」で上田の城下で父と子が生活の環境から互に別れて暮さなければならず、二人は別離を惜んで親子井かなんか喰へる場面があつたが、その場面の次のカットは新聞社の編輯機の廻る急激な場面轉換で、前のカットと既に十数年も経過したかの場所が東京に變るといふ暗示的な演出と比較して、實にいい對照である。

自分の立場を置き共に、「喜一」を夢を追ふ所に、大衆映畫決定版「愛染かつら」が満天下の若い善男善女をして熱狂せしめる所以ではなからうか。(若人よ！反駁しても無駄ですぞ!!)ともかく之は岡村文子や河村黎吉などの達者な連中の助演を得て或程度の成功は納めてゐる。若い男女にうけることは確實らしい。しかし露の生えたおっさんや白髪のおばちゃんにはちと面映しい映畫である。「愛染かつら」は甘味効いた蜜豆である。

文 藝

投稿 歡迎

苦惱の日續く

佐藤喜芳

曇りつ筆を持ちつ、思ひし事
記してみればあはれなる事
瓶持ちて友を飲まんとなをぬぬ
吾を眺めて吾は笑ひき
啄木の心を慕ひ歌を讀む
吾の面を似て似たりき
電燈のともりてあはれ寝られなき
父の頭は白髪を増す
母君が吾を抱きて寝たる如
弟抱きてそつと目を閉つ
汽笛なり静けさかへりの秋の夜
哲人出て吾と語りん
人戀ふる彼の心ぞいとほしき
吾は如何にも獨り歩きぬ
撲らんと思ひき乙女の文を見て
撲るを止めぬ秋の夜中に

愚庵を思ふ

青山新太郎

一月十七日(明治三十七年)は
郷土の生める最大の万葉歌人天
田愚庵の逝きたる日なり、この
類なき孝子の至情を想ふこと切
なるものありて
ふるさとの町に生れし歌人の
逝きたる今日を忘れておもへや
ますらの雄心清く歌ひける
君がみ歌の調かなしも
古の万葉人のごと歌ひける
ますらをぶりのみ歌かなしも
ちのみの父を偲びて泣きにし
孝子五郎が歌はかなしも
は、そはの母に生れし悲しみを
持ちて終りし長き一生を

舊作より

風花抄

渡邊何鳴

鹿の笛風花舞へる天よりす
風花に追はるゝごとく舞舞へり
雪雲のかぐるく鹿を点じたり
岩代の山の湯宿のあはれは柿
置炬燵せんすべなきにあられども

北見まで

牧原素山

みちのくも後一時間すざれば青
森に着く、窓外は薄暗くなり遠か
の峯々もぼんやりと見え、初夏
の香が近づいてゐた。車中は通つ
てゐた。十五時間も汽車に揺られ
通した文三は退屈まぎれに隣の空
席に坐を移した。小半田邊りまで
満員、いぢの關までも一杯だつた
車内は、今では数人の旅行者で時
折薄暗い電燈のもとに顔を合は
せれば、つと誰彼の輪廓位は見
當がついた。
汽車は走りつづける。何時か一
ノ戸驛についた。ごや／＼と四人
の男女が重さうなりユツクを背負
つて文三の乗つてゐるボックスに
入つて来た。あたりはまだぼの暗
い。文三の隣りとは空いてゐた。
中年の都會風な女と四十代の男と
が、前の坐を満した。男の話を
言葉は女の心を奪ふまいと注意を
して喋つてゐるやうに聞これた。
男は灰色のスプリングコートを着
て脚絆を巻いて土地の者らしい。
時々「ホンヤス」「ソエガラ」

等の方言が混つてゐた。女は横須
賀あたりらしい。函館には姉が居
る、妹が女学校の通年動員で先の
工場で左手の指先の重傷で膿血
を起したとか話してゐた。
文三はぐ／＼しい前席の女
に偶々目をやつたが何となく親し
み難い顔をしてゐた。藤豆がはぢ
けるやうなアクセントにも刺のあ
る感じがした。標準服の着こなし
方が上手なのは矢張り都に近い女
といふ感じがして、文三は一種懐
しさが湧いてきた。が露のやうに
消え失せて終つた。この車にはこ
んな派手な女は一人も居なかつた
のも、あながち非とは言はれまい
文三は函館まで行くのかと思つて
「失禮ですがごちやうまでお出です
か」と丁寧に訊いた。「浅出までマ
すの、貴方は……」「北海道で
す」「北海道ですか、大變です
ね、私も時々函館へは参ります
けど、ごちやうで北見ですか。
「上生田原まで行くんですか。丁
度船が連絡してくれれば良いと思
ふんですが……」「いや大丈夫
でせう、今晚は出船するでせう
勤勞奉仕でせう……」この女は
文三が黒の學生服に丸帽をかぶり
それも工專の帽章がついてゐるの
で、嶺山あたりへ通年動員で行の
かとも思つたのであらう。「いや
東京で罹災しましたので一度故郷
へ歸るのですよ」「東京に居らつ
じやつたんですか私も東京にはま
る五年ほど居りましたが、ごちや
らにお住まひだつたんですの、この
女は眞高女を出たと前に話して
ゐた。女學生生活は東京で送つた
家庭の關係上横須賀の方へ移つた
らしかつた。文三は「葉嶋三丁目
です。省線の葉嶋驛の近くです、

今は焼けてガレツがないですが
……」「ちやあどけぬき地蔵の邊
りですか……」女は訊いた「え
そうですよ」眞高女へ通學して
ゐた彼女はとげぬき地蔵を知つて
ゐる筈である、参詣しなかつたと
見えて未だ抜け切らない「とげ」
のある女だ、文三はいぶかしげに
紅い唇の邊りを見つめた。
文三は四のつくだ日には必ず地蔵
様に行き、あちこちの夜店などを
ぶらついては下宿に歸つてきた。
下宿といは(メツチエン)が居た
ことを思ひ出して、一人で微笑し
てゐた。帝國女子専門学校の一年
生だつた、餘り文三とは口もきか
ない、月並の顔をした娘だつた。
だが頭は冴えてゐた、今頃何をし
てゐるだらう、世田ヶ谷の經堂へ
疎開準備でいそがしいだらう。ロ
マン・ローレンどかアンドロイドと
か世界文豪の名前をあげて作品を
批判してゐた女性だつた。そんな
型的女性は文三とは向かなかつた
といつて今眼の前に居る狐のやう
な女性も嫌つた。むしろ情の中に
情熱的なところのある女性が好き
なところがあつた。詩や歌に表は
してゐた。
汽車は何時か淺出についた。隣
の女は「御元氣にさようなら」と
男に引き立てられて出て行つた。
その聲には何の未練も起らなかつ
た、文三はシガレットケースか
ら煙を吐いて、今頃は珍らしい
ライターで火を点け、昨日までの
夢のやうな東京での生活さ、今ま
で前に居た女への願想を吹き掃ふ
べく大きく煙を吐き出した。一條
の煙を文三は追つてゐた。
二〇、六、二一、

レストラン
平 會 館
平市三丁目
電話六二四番

時計と修理
メガネ其他
部品販賣
誠光堂時計店
平市銀座通り

圓型實用洗濯石鹼
化粧クリーム
靴クリーン
常磐線平市四丁目
取引銀行 常陽銀行平支店
電話二六八番

山吉商店
電話二六八番
常磐線平市四丁目
取引銀行 常陽銀行平支店
電話二六八番

求ム自動車修理工(但経験者二名)
委細面談優遇 ス テストノ上採用
常磐石炭増産助成株式會社
自動車修理工場
平市田町二四
(電呼)五〇九番

吉田屋履物店
平市銀座通り
製粉機 各種有り
ドンナ物テモ良ク粉ニナリマス
福島縣平市田町通り
馬目酒店平營業所
吉田 正夫
電話二五番